



想いを 紡ぐ

おも

つむ

川島整形外科病院 外来看護師

濱崎ナースから現場へのエール

株式会社メディカ出版

整形外科看護[®]

The Japanese Journal of Orthopaedic Nursing

かわしまさんの
日常外来 

〈抜粋〉



40歳で他界した看護師・浜崎まき子さん

浜崎看護師が最後に勤務していたかわしまクリニックの看護師ら＝中津市宮夫



熱い思いを 引き継ごう

教材用冊子を発行

中津市の川寫整形外科病院

現場へのエール込め

中津市宮夫の川寫整形外科病院は、同院の看護師で昨年12月に40歳で亡くなった浜崎まき子さんの思いを語り継ぐと、教材用の冊子「^{おも}想いを紡ぐ」浜崎ナースから現場へのエール」(A4判・104頁)を発行した。浜崎さんがリーダーの役割を担っていた外来の看護教育の現場で活用する予定。同院は「天国から見守ってもらえれば幸せ」と話している。



看護への熱い思いを持ち、良き指導者でもあった浜崎まき子看護師＝2015年2月28日

浜崎さんは1998年から病棟に勤務し、2012年に同院併設のかわしまクリニック外来へ異動した。「外来から病棟、病棟から外来へ」という継続性を重視した看護を実践。看護部内の継続教育委員会では、後輩の育成に熱心に取り組んだ。杉本美代看護部長は「患者のニーズを把握するアンテナが鋭く、何より患者にとって最善の医療を提供したいという思いが強い看護師だった」と振り返る。

冊子は、整形外科看護師向けの月刊専門誌に15年1月から16年3月まで連載した「かわしまさんの日常外来」をまとめたもの。浜崎さんは挿入漫画のストーリーと原画を担当。15年7月に胃がんが見つかり翌月から休職となった。最終回まで執筆を続けたという。冊子には手描きの原画やクリニックの仲間に宛てた手紙も載せている。

500部作製し、新人や若手看護師の研修などで使う。杉本部長は「闘病中も弱音を吐くことなく気丈に振る舞い、最後まで復職を願っていた。看護師が大好きだった彼女の熱い思いを引き継いでいきたい」と話していた。(直野剛志)